

教科等研究会（中学校保健体育部会）

平成29年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

主体的・対話的に取り組み、体力を高める体育授業
～PDCAサイクルを基にした授業の工夫改善～

2 研究経過

第1回			第2回（実技講習会）			第3回（研究授業）			第4回（研究授業）		
期日	人数	場所	期日	場所	提案者	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
5 ／ 25	13	御船 中学校	8 ／ 1	木山 中学 校	岩田 聡 (木山中学校)	10 ／ 26	清和 中学 校	武田雅裕 (清和中学校)	1 ／ 26	益城 中学 校	有働秀樹 (益城中学校)

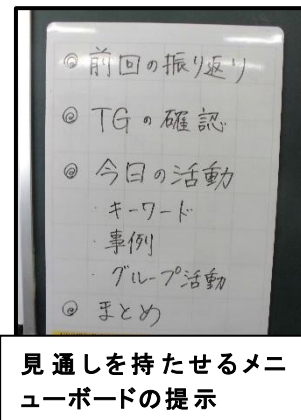
3 研究の概要

(1) 研究の内容

本部会では次期学習指導要領の方針の一つでもある「主体的・対話的」をキーワードに、一人一人の生徒の体力向上を目指し、研究テーマを設定した。昨年度までの取組の成果から徐々に本郡生徒の体力は向上傾向が見られるものの、依然として体力・運動能力調査結果では県や全国平均を下回る項目が多い。そのため、PDCAサイクルを基にした授業の工夫改善に取り組んだ。研究テーマ達成のために共通実践事項として2つの柱、「①主体的な取組」「②対話的な取組」をもとに研究を進めた。

① 生徒が主体的に取り組む授業づくりについて

生徒が主体的に授業に取り組めるために、見通しを持たせる単元計画表やメニューボードの工夫を共通実践事項の一つにした。右図は1時間の授業の流れを示したメニューボードである。指導すべき内容を明確にし、単元の全体像や1時間の授業の流れを提示することで生徒が主体的に学習を進めることをねらった。メニューボードを提示したことで、生徒は次の学習活動を意識し、主体的に活動できるようになった。さらに、毎時間内容を変更するのではなく、単元を通してメニューを固定化し、教師の少ない指示でも授業がスムーズに行えるよう工夫を行った。特に見通しをもつことが苦手な生徒にとっては大切な手法であった。



ICT 機器を用いて本時のめあてを提示している様子

体育授業の中で何かが「分かる・できる」となると生徒は主体的に活動できる。そこで、本時のめあて（学習目標）を誰が見ても分かるよう、具体的な行動様式で表記するよう工夫した。その際、「ハードリングすることができる」のような技能についての行動や、「ポイントを説明することができる」のような思考判断についての行動など、生徒の行動を言葉で示すようにした。

本時のめあての確認のために「視覚化」を積極的に取り入れた。左図は ICT 機器を用いて本時のめあてを確認している様子である。特に導入部分においては目標を意識化させる手立ての工夫を心がけた。

生徒が「分かる・できる」喜びを実感するために、展開の場面においては生徒が課題を解決する場面や時間を計画的に位置づけるようにした。そこでは発問の工夫を行い、生徒が自ら考え、活動に移せるようにした。

右図は球技、バスケットボールでの課題解決場面の様子である。教師の発問に対する自分の考えを、仲間と共に動きを取り入れながら、全体に伝えている。どうすれば課題を解決することができるのかが分かることで、生徒は自信を付け、その後の活動にも主体的に取り組むようになった。特に主となる発問の場面では様々な働きかけを行い、生徒の思考をねらいへと導くように心がけた。主発問の後にはペアやグループでの活動に取り組む流れを固定化し、仲間とかかわりながら課題を解決できるようにした。



課題に対する自分の考えを全体に伝えている様子

② 生徒が対話的に取り組む授業づくりについて

平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書によると、生徒は仲間とのかかわりのなかで「分かる・できる」喜びを実感していた。体育の授業の中でも言語活動の充実が求められており、本研究会でも積極的に取り入れている。

授業においては、ペア学習やグループ学習の時間を多く設定し、生徒同士で課題解決に向けた学習を進めることができるよう工夫した。その際、課題解決していく中で何について教え合ったり、話し合ったりしていくかの視点を明確にした。

また、話し合いや教え合いの様子は積極的に賞賛し、たくさんの場面をつくれるよう助言を重ねた。視点についてだけでなく、学習が進むにつれ、「いいね」や「がんばれ」などの仲間のやる気を引き出す言葉も聞こえるようになった。自分自身ができなくても技のポイントを指摘したり、「〇〇ができていないか見ていて」など自分でポイントを整理したりしながら学習を進めることができるようになった。

授業のまとめの段階では、学習カードをもとに生徒に学習内容を振り返らせる場面を設定した。1時間の授業の中で学んだことを伝え合うよう工夫している。生徒は話し合ったり、確認し合ったりした内容を更に深めることができた。



視点をもとに班で話し合っている様子(保健の授業)



学習カードでの振り返りの様子(保健の授業)

(2) 成果と課題 (○ : 成果 ● : 課題)

① 生徒が主体的に取り組む授業づくりについて

- 目標を明確にしたり、見通しを持たせたりするなどの手立ては主体的に取り組むための意欲向上につながった。その際、「視覚化」の工夫は有効である。
- 発問の工夫を行うことで、生徒は課題解決しやすくなる。仲間とかかわりあいながら課題解決していくことは、特に運動が苦手な生徒の意欲の向上に役立った。
- 「分かる・できる」喜びを実感させるために、生徒の実態に応じて指導すべき内容や方法を精選していく必要がある。
- アンケートを実施するなどし、意識の変容を捉え、効果的な指導につなげていく。

② 生徒が対話的に取り組む授業づくりについて

- 視点を分かりやすく伝え、ペア学習やグループ学習を活性化させることにより、生徒は学びを深め、より意欲的に学習に取り組むようになる。
- 作戦ボードなどの思考ツールを効果的に用いることで、生徒同士の教え合いや話し合いが活発になった。
- 対話的な活動と運動量の確保とのバランスを考えないと、体力向上につながらないことになる。
- 学習カードなどでの振り返りの内容を次時に生かしていく手立ての工夫を今後郡全体で考えていく必要がある。

3 実践事例

(1) 授業の概要

中学2年生「球技：ゴール型（バスケットボール）」

授業者：有働秀樹教諭（益城中学校）

球技領域において、課題解決場面にどのような工夫を行えばよいかを提案していただいた。前時の振り返りから、ボールを持たない動きの視点（①スペース、②フリー、③選択肢）を導き、生徒の言葉から考えを深める工夫が見られた。モデリングで動きを確認したり、ICT機器を用いて提示したり、視覚的に分かりやすい手立てを、授業全体を通して意識されていた。そのことは、見通しを持つことにもつながっている。

ビブスの色を変え、パスする順番を固定したことで、生徒は動き方を主体的に工夫していた。作戦ボードを活用し、仲間と動きを確認したり、工夫したりする活動を多く設定していた。「選択肢」という課題を解決するために積極的に話し合ったり教え合ったりする様子が伺えた。

導入部分で行うスキルウォームアップの取組はこれまでの研究の成果の一つであった。今後も取組を継続していきたい。



(2) 授業研究会

①授業者自評

- ・グループ活動で主体的な学びを、作戦タイムや学習カードを用いて対話的な学びの充実を図った。
- ・PDCAサイクルを意識し、生徒の言葉から授業展開を考えていった。
- ・運動量の確保については課題が残った。

②質疑応答・研究協議

Q：ゴールを使わなかった理由は？

A：簡単にシュートを打つ現状があったため、ねらいに近づけるためにパス中心のゲームを行わせたかった。そのために椅子をゴールにした。シュートしたいという意欲が強い生徒も多く、今後は様子を見て、授業を展開していく。

Q：時間配分をどの程度意識したのか？

A：活動を止めたり、集合をかけたりすることが多かったのは反省の一つである。指示の工夫を行い、動いている時間と話し合いの時間のバランスを考えていきたい。

Q：主発問と評価基準との関係は？

A：ゴール近くの動きで、ねらいに沿った動きができれば評価していた。目標と評価基準とが合っていない部分は反省していきたい。

～協議～（授業改善の取組や体力向上に向けた取組について）

- ・ゴール型の種目なのでシュートまでつなげてほしかった。ルールを工夫すればシュートを楽しむことができたのではないかと考える。
- ・学習活動が12と多かった。精選していくことで活動量の確保ができた。
- ・生徒の言葉で「スペース」「フリー」「選択肢」という視点が提示されたが、明確化できておらず、生徒は判断を迷っていた。一つに絞ってもよかったと思う。
- ・主体的・対話的な活動が体力向上につながっていたか疑問が残る。時間の配分には工夫が必要であるため、今後も研究を重ねていきたい。

③助言者まとめ

研究テーマにもとづいた提案性の高い授業でした。教師の工夫の仕方では生徒の動き方や考え方が変わっているのが分かった。体育はやってみて分かるという表現もある。生徒の表現方法を増やしてほしい。スキルウォームアップは体力向上に向けた上益城独自の取組であるため、今後も研究を深めていってほしい。主体的に活動させるためにも体育委員やバスケットボール部の生徒の効果的な活用が望まれる。振り返りの活動を充実させ、PDCAサイクルを大切にしてほしい。

第2学年3・4組 保健体育科学習指導案

場 所：益城中学校体育館

指導者：教諭 有働 秀樹

1 単元名 球技：ゴール型（バスケットボール）

2 本時の学習

（1）本時のねらい

パスを受けるために空いているスペースに動くことができる。【技能】

（2）本時の展開 （6／12）

（3）学習指導案（一部省略）

	時間	学習活動	学習形態	教師の支援及び評価	備考
導入	10分	1 集合整列、出欠確認 2 ランニング、準備運動、スキルウォームアップトレーニング（ドリブルリレー・ランニングパス・30秒間シュートゲーム） 3 4対2でのパスゲームを行う。 【ルール】 ・ハーフコート・ドリブルなし・4対2・30秒	一斉 グループ	・体操、補強運動には、巡回しながら個々の生徒に指導を行う。 ・主運動につながる部位を意識して運動させる。 ・スキルウォームアップのタイムや回数を確認し、生徒が伸びを実感できるようにする。 ・空間に走り込む感覚を体験できるように、アウトナンバーの場面を設定する。	電子黒板 ボール デジタルタイマー
		4 本時のめあてと学習内容を確認する。 めあて パスがもらえる場所に動いてパスをもらおう。		・「前時のことを思い出そう。」と声をかけ、生徒にボールを持たないときの動きを意識づける。 【ルール】 ・ハーフコート・ドリブルなし・3対3・30秒・パスはピンク→緑→青の順	電子黒板
展開	30分	5 3対3でのパスゲームを行う。 6 モデリングによる確認 主発問 「どこに動けばパスが つながるのだろうか」 7 作戦タイム 8 チーム練習 9 メインゲームを行う。 【ルール】 ・ハーフコート・ドリブルなし・4対4・30秒 ・パスはピンク→緑→青の順	グループ 一斉 グループ	・モデリングでは、生徒を実際に動かすことと、電子黒板に図を写して、視覚的にわかりやすいようにする。 ・モデリングで確認した動き（相手がいないところへ動く）を意識した作戦が立てられているのかを確認する。 【評価 B基準】 ☆味方がボールを持っているとき、シュートにつながる動きができてい る。【技能】（観察） （B基準に達していない生徒への手立て） 「ディフェンスがいないところに動いて ごらん」と声をかけたり、仲間同士の教 え合いを促したりして動きを意識させ る。	作戦 ボ ード
		10 整理運動を行う 11 本時の反省と評価を行う ・学習カードの記入、発表 12 まとめ・次時の確認		・めあてを意識した動きや、今日学んだことを中心に発表させる。 ・生徒の発言から困ったことなどがあれば、そこから次時につなげる。	
まとめ	10分		一斉		学習 カ ード

4 終わりに

一人一人の生徒の体力向上を目指して1年間研究を続けてきた。今年度の研究成果と課題を踏まえ、来年度はさらに充実した授業が展開できるよう、更に研究を進めていきたい。